

各部会の令和 6 年度後期活動報告について

令和 7 年 3 月 1 4 日

令和6年度「地域生活支援拠点等検討部会」後期活動報告について

1 開催日時

第27回地域生活支援拠点等検討部会 令和6年6月28日（金）

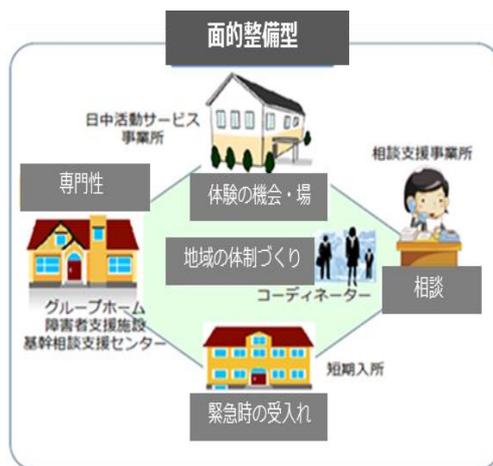
第28回地域生活支援拠点等検討部会 令和6年9月27日（金）

第29回地域生活支援拠点等検討部会 令和7年2月21日（金）

2 検討事項

障害者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制として地域生活支援拠点等（以下「拠点」という。）を令和2年度末までに面的整備を行い、令和3年度から運用を開始しました。

今年度の当部会は引き続き、拠点機能の充実に向けた検討を進めました。



3 部会員

団体等名	氏名
医療法人 成精会	垣田 泰宏（部会長）
社会福祉法人 観寿々会	橋口 磨理子
刈谷市障害者支援センター	相澤 道子
西三河南部西地域アドバイザー	鈴木 康仁
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	間瀬 菜穂子
刈谷市社会福祉協議会	川口 剛史
社会福祉法人 ひかりの家	武田 智枝
株式会社 悠	外山 浩章
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	吉川 由美
刈谷手をつなぐ育成会	池田 富
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏

4 検討経過

今年度は、昨年度に実施した運営評価において、評価が低かった「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」機能を中心に検討しました。第29回部会では、一人暮らし体験利用制度の運用に向けた検討、拠点機能拡充に向けて実施した事業所ヒアリング結果の報告及び令和6年の運用評価を行いました。

5 検討結果

(1) 事前登録の現状と見通し

事前登録の窓口となる各相談支援事業所と連携し、事前登録が必要と思われる対象者について勧奨の依頼をしました。令和7年1月末時点で事前登録は3件です。引き続き、随時の相談、勧奨等を行います。

(2) 拠点機能の充実について

検討・整備を進めている内容の進捗状況は、ア～ウのとおりです。

ア グループホームの体験利用について

体験利用者の実績及び体験者の振り返りシート（アンケート）結果について情報共有しました。市内相談支援事業所との意見交換を行い、体験の利用促進について検討しました。引き続き、利用者への周知、利用促進に向けた取組とともに体験利用後の調査実績の積み上げを行い、地域移行への課題等を抽出し、体験方法やプログラムの改善、地域移行への取組等を検討していきます。

イ 一人暮らし体験利用の整備について

一人暮らしの体験が可能な「体験の場」について、グループホームのサテライト型住居を利用した体験制度及び居室を利用した体験制度の2パターンの実施に向けた調整を行いました。令和7年度からの運用開始に向けて、条件や手順等について最終的な調整をしていきます。

ウ 専門的人材の確保・養成について

専門的人材の「確保」について検討しました。福祉事業所従事者へのアンケート調査結果の報告（別添1）及び人材確保についての情報共有を行いました。引き続き、情報収集を図るとともに取組方針等について検討していきます。

6 運営評価

評価方法

- ・地域生活支援拠点として整備を進める居住支援のための5つの機能ごとに「実績」及び「取組状況」を記載した評価シートを作成。
- ・評価シートに基づき、地域生活支援拠点等検討部会の部会員11名が、それぞれの機能ごとに「課題・意見」を記載し、0から5の（6段階）評価を行う。
 - 0：できていない
 - 1：ほとんどできていないが、仕組みができつつある
 - 2：一部はできているが、まだまだ十分でない
 - 3：大分できているが、十分ではない部分がある
 - 4：ほとんどできているが、改善すべき部分がある
 - 5：できている

令和6年1月1日から令和6年12月31日までの地域生活支援拠点等事業の取組についての運営評価は別添2のとおりです。また、項目ごとの評価（平均値）は下記のとおりです。

項目	①相談	②緊急時の受入れ・対応	③体験の機会・場	④専門的人材の確保・養成	⑤地域の体制づくり
評価 (平均値)	3.0	2.5	2.5	2.5	2.8
参考 (前回評価)	3.3	3.0	2.9	2.6	3.5

7 今後の検討事項

令和6年評価で評価点数の低い「体験の機会・場」として、体験制度の利用促進に向けた取組、「専門的人材の確保・養成」機能として、人材確保策を中心に取組を行います。また、「相談」及び「緊急時の受入れ・対応」等のその他の機能についても引き続き機能充実にに向けた検討・取組を行います。

参考

地域生活支援拠点等で整備する5つの柱（機能）について

機能	内容
①相談	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援事業とともに地域定着支援を活用してコーディネーターを配置し、緊急時の支援が見込めない世帯を事前に把握・登録した上で、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に必要なサービスのコーディネートや相談その他必要な支援を行う機能
②緊急時の受入れ・対応	短期入所を活用した常時の緊急受入体制等を確保した上で、介護者の急病や障害者の状態変化等の緊急時の受け入れや医療機関への連絡等の必要な対応を行う機能
③体験の機会・場	地域移行支援や親元からの自立等に当たって、共同生活援助等の障害福祉サービスの利用や一人暮らしの体験の機会・場を提供する機能
④専門的人材の確保・養成	医療的ケアが必要な者や行動障害を有する者、高齢化に伴い重度化した障害者に対して、専門的な対応を行うことができる体制の確保や、専門的な対応ができる人材の養成を行う機能
⑤地域の体制づくり	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援、一般相談支援等を活用してコーディネーターを配置し、地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や、地域の社会資源の連携体制の構築等を行う機能

令和6年度「就労支援部会」後期活動報告について

1 開催日時

第47回就労支援部会	令和6年 6月 4日 (火)
第48回就労支援部会	令和6年10月 1日 (火)
企業向け雇用セミナー	令和7年 1月22日 (水)
第49回就労支援部会	令和7年 1月28日 (火)

2 部会員

団体等名	氏名
認定特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨 (部会長)
特定非営利活動法人 くるくる	手嶋 雅美
パッソ刈谷校	大城 盛一郎
LITALICO ワークス刈谷	濱島 健
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	川村 顕治
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	志水 みゆき (~9月) 早川 智洋 (10月~)
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
刈谷市立刈谷特別支援学校	佐伯 忍
商工業振興課	北洞 貴康

3 報告事項

(1) 第48回就労支援部会 (令和6年10月1日開催)

ア 雇用セミナーについて

令和6年7月、8月に実施した雇用セミナーワーキンググループの内容等 (開催日、テーマ、セミナー内容等) について部会員に報告し、情報共有を行いました。

イ 課題解決に向けた取り組みについて

① 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進について

12月に開催した就労支援連絡会にて、これまでに一般就労への支援の経験のある就労継続支援事業所や就労移行支援事業所より一般就労に至る流れや支援方法について話題提供いただき、事業所同士で課題やよりよい支援に向けた考えについて意見交換をしていく旨、共有しました。

②学校卒業後の就労定着支援について

障害者就業・生活支援センターや学校の取組について情報共有を行いました。

③就労選択支援について

現時点での情報や事業所の対応の方針について確認を行いました。

(2) 企業向け障害者雇用セミナー（令和7年1月22日開催）

ア 開催場所

産業振興センター 604会議室

イ プログラム

①障害者雇用のサポートについて

I 「障害者雇用について」

講師：ハローワーク刈谷 中山 忠司 氏

II 「障害者就業・生活支援センターとは」

講師：障害者就業・生活支援センター 橋本 佳奈 氏

②市内就労移行支援事業所紹介（5事業所）

- ・就労移行支援事業所 アンダンティエーノ
- ・就労支援センター くるくる
- ・認定特定非営利活動法人 パンドラの会
- ・パッソ刈谷校
- ・LITALICO ワークス刈谷

③就労移行支援事業所を利用し企業へ就職した方の発表

発表者：株式会社 funbox 河島竜伍氏と当事者の方

愛知県厚生農業協同組合連合会安城更正病院 松井諒太氏、佐藤光太氏

④質問タイム

QRコードを使った質問形式を採用し、スマートフォン等により質問を見える化し、質疑応答を行いました。

ウ 参加者数

19団体 22名

<参考>過去に開催した雇用セミナーの参加者数

令和5年度：19団体 23名

令和4年度：15団体 18名

<参加者の主な意見>

- ・実際に現場で働いている障害者の方の生の声が聞けて良かった。
- ・会社側の考え方と障害者の考え方の両方を聞けて勉強になった。
- ・就労移行支援事業所の就職後のサポートについて説明が聞けて良かった。
- ・発表された企業が障害者雇用に当たり使用している「業務切り出しシート」を共有していただきたい。

(3) 第49回就労支援部会（令和7年1月28日開催）

ア 雇用セミナーについて

1月22日に開催した雇用セミナーについて、振り返り及び来年度の開催について検討しました。

①振り返り

- ・今回グループワークから就労移行支援事業所の紹介に変更したことで、グループワークだと時間が限られてしまい本質的な話に至らずに終わってしまうところが多かったところ、利用者の生の話も交えて就労支援事業所の紹介ができたこと、また、企業と当事者双方の話を聞くことができたこと、質問の時間をしっかりと設けることができたことから、持ち帰っていただける情報が多いセミナーだったと思う。
- ・就労移行支援事業所それぞれに特色があり、自分たちにとっても他の事業所の取組を知る機会になった。企業にとっても当事者の話を交えながら説明できたことが、アンケートにおける満足度の高評価に繋がったのではないかな。
- ・就労移行支援事業所に通われている利用者の発表を企業に見てもらい、障害のある方を実際に見ていただいたことに意味があると思う。また、企業にとっても有益だったのではないかな。

②来年度の開催について

- ・雇用セミナーの実施だけでなく、企業と就労移行支援事業所等、また企業同士の繋がり作りに繋げられるような手法を検討していきたい。
- ・参加される企業がどのようなことに関心があるのか、企業のニーズに沿った内容になるようテーマや内容について検討していきたい。

イ 就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

以下の内容に係る報告を受け、検討を行いました。

①就労継続支援A型・B型からの一般就労促進について

- ・12月に開催された就労支援連絡会にて、一般就労への支援をした経験のある就労継続支援事業所や就労移行支援事業所より一般就労に至る流れや支援方法について話題提供いただき、事業所同士で課題やよりよい支援に向けた考えについて意見交換したところ、働く意識やモチベーションの必要性、保護者の希望や不安への対応について意見が出された旨報告がありました。
- ・その他の部会員の意見として、他市の事例で就労継続支援B型を利用する中で、1か月に1回程度就労移行支援や、他のB型事業所を体験する取り組みをしており、新しい体験をすることを促す取組も良いのではないかなという意見が出されました。

②就労選択支援について

- ・来年度10月から開始され、就労継続支援B型を利用する場合は原則として、A型の場合は任意で制度を利用することになること、現状、厚生労働省から具体的な情報は提示されていないが、情報が提示され次第共有していくこととしました。

③学校卒業後の就労定着支援

- ・現在の課題として、家族に頼る支援に限界もあることから、外部機関からの支援を入れることで、システムとしてフォローできる仕組みを検討していきたいという意見が出されました。

④ひきこもりを含む若者の就労支援について

- ・地域若者サポートステーションとの連携について、検討してはどうかという意見が出されました。
- ・ひきこもりについては、対応窓口が多く、課題も多岐に渡ることから就労という点だけで検討を進めることが難しいため、各分野で進められる取組を注視し、障害者就労の面での必要な課題が整理された段階で改めて取組を検討してはどうかという意見が出されました。

4 今後の取組み及び検討事項等

来年度については、就労継続支援A型、B型からの一般就労促進について、今年度抽出された課題を参考にした取組の検討、就労選択支援については、来年度から開始されることから、情報収集に努めつつ、勉強会の開催について検討をしております。その他、学校卒業後の就労定着支援についても引き続きよりよい支援について検討を行います。

また、企業向け雇用セミナーについては、今年度のセミナー参加者から寄せられたアンケートの回答結果を受け、より効果的な内容や開催方法等について検討を行います。

令和6年度「相談支援部会」後期活動報告について

1 開催日時

第68回相談支援部会	令和6年	5月30日(木)
第69回相談支援部会	令和6年	9月19日(木)
第70回相談支援部会	令和6年	12月19日(木)
第71回相談支援部会	令和7年	2月25日(火)

2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市障害者支援センター	伊澤紀明(部会長)
社会福祉法人 ひかりの家	山田哲哉
社会福祉法人 観寿々会	酒井克朗
刈谷市社会福祉協議会	神谷清美
株式会社 悠	外山浩章
株式会社 エイト	竹内弓理
株式会社 こもれび	佐々木 亜紀子
西三河南部西地域アドバイザー	鈴木康仁

3 報告事項

(1) 第70回相談支援部会(令和6年12月19日開催)

ア 相談支援部会に関連する各連絡会報告

各連絡会の活動報告を行い、そこで話し合われた困難事例や地域課題、その解決策等について共有をしました。

<相談支援連絡会>

相談支援連絡会では、事例検討から各事業所の課題とその解決策を検討しました。

【事例1】

20代女性、就労継続支援B型事業所に通所し、休日は移動支援サービスを利用、両親と3人暮らし。母親が怖いと泣き叫びパニックになる。母親は、本人との関わりが難しくなっており、家族のレスパイト利用として短期入所も可能だが、母親は将来も自宅で過ごしてほしいと考えているため、サービス利用にはつながっていない。今後どのように関わっていくか。

(意見交換内容)

- ・母親が同じような子どもを持つまたは育てた経験がある育成会や法人の保護者の集まりに参加し、交流してみる。
- ・短期入所の見学を行い、本人の反応を見してみる。
- ・本人がやりたいこと、望んでいることを引き出してみる。

(発見された地域課題)

- ・家族会などについて、あまり市民が知らないため、周知活動ができるとうい。

【事例2】

40代女性、うつ病。夜勤のある工場へ就職したが、不規則な勤務に負担を感じ、仕事のミスが続き、人間関係のトラブルがあり退職。父の介護などをしながら自宅に引きこもる生活となる。長く母と2人の生活だったが、母が親族宅へ転居し、一人暮らしとなる。就労をしたいが自己肯定感がとても低く、母に負担をかけているという思いから不安等を話せていない。金銭管理は母が行っている。本人のペースや思いを中心に進むことができるようにするためにはどうすればよいか。

(意見交換内容)

- ・医療とつながっており、さまざまな支援者がいる。
- ・長く引きこもりの生活を送っているが、父の介護や一人暮らしなど、できることが多い。
- ・自己肯定感が非常に低いため、デイケア等の安心して失敗できる場所で、できることから始め、成功体験を積み重ねる。
- ・好奇心があり、好きなことを続けられていたため、好きなものに関わりのある福祉的就労の見学や体験を試してみる。
- ・在宅ワークや内職も視野に入れる。
- ・母の気持ちも受け止めつつ、本人が主体となるような話し合いの場を持ち、本人の困りごとを中心に考えていく。

(発見された地域課題)

- ・包括的支援を行うための他機関連携

<地域包括交流会>

地域包括交流会では、高齢者・障害者だけの課題ではなく、家族の不仲や地域からの孤立など、複合課題を抱えている家族支援において、支援者として何を課題と捉え、どのように支援していくのか、課題の解決を目的

とするのではなく、それぞれの着眼点について話し合いを行いました。

(複合課題を抱えている家族への支援の着眼点)

- ・ 地域との関わり
- ・ 困りごとの整理
- ・ 切れ目ない支援の方法
- ・ 医療機関との連携
- ・ キーパーソンの確立
- ・ 財産管理
- ・ 他機関連携

<くらしと通所の連絡会>

人材不足・人材育成、他機関連携及び事業所が地域で事業を続けていくための課題などについて話し合いを行いました。

- ・ 人材に関する課題については、高齢分野から障害分野に転職した職員の離職や給料面の理由で離職する職員が多いこと、募集をかけても人材が集まらないことなどの課題が挙げられました。また、人材不足を解決するためには、人材育成が非常に重要になってくるとの意見がありました。
- ・ 他機関連携に関する課題については、65歳以降の障害から介護への切り替えのタイミングや事前準備の難しさについて、課題が挙げられました。
- ・ 事業所が地域で事業を続けていくための課題については、事業所開設時の挨拶周りはするが、その後の地域との関わり方やきっかけづくりの難しさについての意見や地域のお祭りに参加をすることで事業所を知ってもらおうとよいのではないかという意見もありました。

イ 相談支援体制の充実に向けた取組について

刈谷市の相談支援体制の充実に向けた課題解決を検討するワーキンググループでは、相談支援員の業務過多に注目し、サービス等利用計画を作成するに当たり困難と感じていることやモニタリングを実施するに当たり困難と感じていることについて、話し合いを行いました。

相談支援員が対応する1人当たりの相談件数や計画作成件数が年々増加しており、適切な支援を続けていくためには、相談支援員の増員、処遇改善、新たな相談支援事業所の参入の促進及び障害児通所支援の申請範囲の再検討などの取組が必要となってくるとの意見がありました。

(2) 第71回相談支援部会（令和7年2月25日開催）

ア 相談支援部会に関連する各連絡会報告

各連絡会の活動報告を行い、そこで話し合われた困難事例や地域課題、その解決策等について共有をしました。

<相談支援連絡会>

相談支援連絡会では、事例検討から各事業所の課題とその解決策を検討しました。

【事例1】

30代男性、就労継続支援B型事業所に通所していたが、少しずつ休みが増え、退所。現在は、自宅で過ごしている。母親は死去し、父親は入院をしているため、伯母が支援をしている。生活基盤を整えるため、一時入院やショートステイ、グループホーム、ヘルパーなどの福祉サービスや社会福祉協議会での金銭管理等を提案したが、本人は希望されず、日中活動の希望も特になく状況である。今後どのように関わっていくか。

（意見交換内容）

- ・ 公的な支援や福祉サービスに該当しない方を支援できる仕組みや見守りの体制が少ないため、地域住民や民生委員などの訪問があるとよい。
- ・ 本人や家族が参加できる場を考えた時に、年齢や職種等関係なく、支援者も地域住民も集まれるサロンのようなものがあればよい。
- ・ ニーズに合うフォーマル、インフォーマルな資源がなく、社会資源が不足している。

（発見された地域課題）

- ・ 一歩出られない人たちへの関わり

【事例2】

20代男性、自閉症スペクトラム症。幼少期から感情のコントロールが難しいことがあり、中学時代は怒ると手を出してしまうことがあった。複数の心療内科を受診したが、継続できていない。大学生の際には、就労移行支援を利用するが、自分のことを理解してもらえないという思いから利用を終了。その後、グループホーム、就労継続支援B型事業所の利用を開始している。家族の理想が高く、本人の現状とかけ離れている部分があり、理想と現実のギャップに悩み、それが父親への暴言や支援者への不満となっている。

(意見交換内容)

- ・相談支援事業所、サービス提供事業所以外の相談先がなく、抱え込み状態になってしまうことがある。
- ・医療機関と連携する中で、医療と福祉の視点の違いを理解し、相談員の役割をわかってもらえるように考えていく必要がある。
- ・モニタリングや支援について、他事業所と意見交換や相談ができる場があると良い。
- ・地域課題を出してはいるが、解決しないことが課題ではないか。事業所、行政が力を合わせて解決方法を考えていけるとよい。

(発見された地域課題)

- ・本人が参加できる場が少ない。
- ・医療機関との連携が取りにくい。

<地域包括交流会>

地域包括交流会では、60代男性のセルフネグレクトのケースにどのように関わっていくのかを検討しました。セルフネグレクトのケース対応は、長期化することも多く、終わりの見えない支援に支援者が疲弊することもあるため、各機関の対応などについて話し合いを行いました。

(意見交換内容)

- ・障がい者支援では、本人からの希望がないことに対して動き辛い。
- ・高齢者支援であれば、セルフネグレクトで虐待対応に準じて動く。
- ・本人宅へ出向くアウトリーチ活動や、関係性を築き、複数人で関わる。
- ・包括は、支援介入が難しいケースは「お元気ですか訪問」で関わっている。
- ・本人が「困った」というタイミングを待つ。長い支援が必要である。
- ・地域住民同士の関りが希薄化しているため、セルフネグレクトに気が付かない。

イ 相談支援体制の充実に向けた取組について

刈谷市の相談支援体制の充実に向けた課題解決を検討するワーキンググループでは、相談支援事業の複数事業所の協働による体制整備についてのアンケート調査を各相談支援事業所に行いました。

「協働型への参加を進めていきたいか」との質問に対しては、「検討中」と回答した事業所は3事業所、「いいえ」と回答した事業所は3事業所、「はい」と回答した事業所はありませんでした。

「検討中」と回答した事業所の回答内容としては、「人手不足や業務の負

担が軽減するのであれば検討する」「負担感が増す印象が強い」などの回答がありました。

「いいえ」と回答した事業所の回答内容としては、「人員に余裕がない」「24時間365日の体制が難しい」などの回答がありました。

以上の結果とはなりましたが、複数事業所の協働による体制整備については、今後も情報収集をするとともに、実現可能性を検討することとなりました。

また、来年度については、相談支援員を増員するための取組、障害児通所支援の申請範囲の見直し及び学校等と事業所間の当事者情報連携についての検討を行っていくことを決定しました。

4 総括及び検討課題

以前より相談支援体制の充実が課題として挙がっており、多くある地域課題の中でも、特に優先して解決すべき課題となっていたため、相談支援体制の充実に特化した相談支援部会のワーキンググループを立ち上げ、話し合いを行ってきました。その中で相談支援員が抱えている課題としては、サービス等利用計画作成においては、アセスメント、プラン作成及びサービス担当者会議の開催など、モニタリング実施においては、日程調整、訪問、聞き取り及び書類作成など、行うことが非常に多く、相談支援員が疲弊している状況をどのように解決していくのかという課題が挙がりました。そのような課題に対し、障害児通所支援の申請範囲の再検討、相談支援員を増員するための取組及び新たな相談支援事業所の参入の推進など、解決していくための手段についても意見が挙がりました。

また、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、ピアサポーターの育成を目的とした誰でも気軽に話ができる場である「かりぴあトーク」や当事者の困りごとへの相談指導や伴走支援を行うことができる人材を育成するための研修を開催しました。

来年度については、相談支援体制を充実させるため、相談支援員を増員するための取組、障害児通所支援の申請範囲の見直し及び学校等と事業所間の当事者情報の連携についての検討を行っていくことを決定しました。検討内容が多岐に渡るため、部会で検討を行う上で必要となる情報等の収集に関しては、連絡会にも協力を依頼することも決定しました。

今後も相談支援の質の向上や提供体制の整備を推進するため、今年度挙げた課題の課題解決方法について、部会で検討を重ねていきます。

令和6年度「子ども部会」後期活動報告について

1 開催日時

第27回子ども部会 令和6年 6月11日（火）

第28回子ども部会 令和6年11月12日（火）

第29回子ども部会 令和7年 2月18日（火）

2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市社会福祉協議会	神谷清美（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	山田哲哉
医療法人 成精会	松本靖子
刈谷特別支援学校PTA	小林歩美
安城特別支援学校地区別懇談会 刈谷交流会	伊藤麻衣
らっこちゃん親の会	宮田志保子
刈谷児童相談センター	鈴木雄二
刈谷市立刈谷特別支援学校	清水雅也
愛知県立安城特別支援学校	加藤則子
子育て支援課	角岡篤樹
学校教育課	近藤佳奈子

3 報告事項

(1) 第28回子ども部会（令和6年11月12日開催）

ア 子育て支援セミナーの開催について

ワーキンググループにて決定した以下の内容の確認と子育て支援セミナー当日の役割分担についての検討を行いました。

【テーマ】「障害児の性」「自己決定」

【講師】日本福祉大学 教育心理学部教授 伊藤修毅氏

イ 所属機関の抱える課題について

社会福祉法人ひかりの家より話題提起があり、福祉事業所と教育機関との子どもに対する支援の連携について引き続き検討しました。事業所と学校間の連携が上手くいかない要因として、福祉と教育で制度やルールが異なること、情報共有の場を設けることの困難さ、保護者の介入不足等が挙げられました。

報酬改定により福祉と教育の連携が増加することが予想されることから、刈谷市において福祉と教育の連携における指針を設けるために、事業所と学校に対しアンケート調査を実施したことについて報告しました。調査結果としては、送迎時のやり取りが上手くいっていない、お互いの立場についての理解の不足（情報共有の場についての理解、教育と療育の考え方等）、保護者とのやり取りについてが主に問題として挙がりました。

ウ 子ども連絡会について

令和6年11月5日（火）に開催しました。

障害児通所支援事業所 27事業所 37名

短期入所事業所 1事業所 1名

相談支援事業所 2事業所 3名

刈谷市基幹相談支援センター（事務局）4名 合計 45名が参加

内容としては、運営面の課題、保護者からの要望への対応（延長利用希望など）、人員調整の難しさ、学校との連携、進路、卒業後の居場所について、事業所独自の取組について話題の提起があったため、各事業所が意見を出し合いました。今年度より新設された延長加算について、人員配置の面から困難があることや、有資格人材確保の難しさ等の意見が挙げられました。

また、他機関との連携時の体制整備の要望として、担当者会議を開きやすい仕組みづくり、他機関との連携に利用できる統一されたツールが欲しい等の発言がありました。

エ 医療的ケア児支援の現状について

令和6年度における医療的ケア児学校等訪問看護事業の現状と来年度の利用見込み、市内医療的ケア児等コーディネーターの現状と課題、令和6年11月29日（金）に開催の医療的ケア児等支援研修についての詳細、令和5年度末に実施した医療的ケア児実態アンケート調査の結果（別添3）について事務局より以下のように報告しました。

①回答率62.16%（対象者37名に対し23名からの回答）

②日常的な困難の傾向としては、預け先の介護者の不足や、恒常的な配慮が必要で心が休まらない等の意見が多い結果となりました。

今後、このアンケート結果を基に、保護者への支援施策及び支援環境の整備に向けた検討をしていきます。

（2）子育て支援セミナー（令和7年1月29日開催）

ア セミナー内容

【開催日時】令和7年1月29日（水）午前10時～正午

【会場】刈谷市社会教育センター401研修室

【講師】日本福祉大学 教育心理学部教授 伊藤修毅氏

【内 容】講演（60分）※質疑応答含む

「障害のある子どもたちの性と生」

⇒「包括的性教育」という人権尊重を大前提とした性教育を学びながら、障害のある子どもたちの性と生について考える内容

○交流タイム（30分）

9グループに分かれ（1グループ6人程度）、それぞれのグループに1名ファシリテーターを置き、自己紹介、講演の感想をグループ内で話し合い。

○フィードバック・質疑応答（10分）

イ 参加者数

60名（定員60名に対し86名の申込み）

ウ セミナー申込に関する内容

①セミナーを知ったきっかけ

チラシ：58名 市民だより：9名 あいかり：2名 市HP：1名
LINE：4名 その他：12名（知人、放デイや療育等からの情報）

②申込方法

電子フォーム：59名 電話：16名 FAX：4名
申込用紙：5名 メール：2名

エ アンケート結果

回収：57枚（講演のみ参加：14名 交流タイム参加：43名）

【講演について】

内容の理解度	平均 5.6	理解できた	←—————→					理解できなかった	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		37	18	2	0	0	0	0	
講演の時間	平均 2.9	長い	←—————→					短い	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		2	2	14	19	13	7	0	
日常の子育てや生活に役立ちそうか	平均 5.5	役立つ	←—————→					役立たない	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		37	15	4	1	0	0	0	

【交流タイムについて】

交 流 の 時 間	平均 3.5	長い	←—————→				短い	回答なし
		6	5	4	3	2	1	
		1	3	19	12	5	1	2
日 常 の 子 育 て や 生 活 に 役 立 ち ぞ う か	平均 5.1	役立つ	←—————→				役立たない	回答なし
		6	5	4	3	2	1	
		20	12	8	2	0	1	0

【来年度以降のセミナーに対する希望】

- ・性教育（具体的な教育内容、学校での性教育等）について
- ・障害ごとの子どもとの関わり方について
- ・ライフステージごとの支援について
- ・発達障害・グレーゾーンの子どもに関する他者の意見が聞ける場の提供について
- ・世間からの目を気にしてしまう人へ向けた講演について
- ・いじめについて
- ・将来の就職に関すること、親亡き後のことについて
- ・不登校児への支援について

（3）第29回子ども部会（令和7年2月18日開催）

ア 子育て支援セミナーふりかえりについて

参加者からのアンケート結果に基づいて、当日の所感や反省点を確認し、来年度のセミナー開催について検討を行いました。

その結果、参加者のセミナーにおける内容の理解度が高く、子育てについて勉強したいという保護者のニーズもあることから、来年度以降も引き続き、セミナー開催を目指していくこととなりました。一方で、講演や交流タイムの長さについて意見が多いことから、タイムスケジュールについては検討の必要があると考えます。

イ 次年度の子育て支援セミナーのテーマについて

次年度の子育て支援セミナーのテーマ候補として、引き続き需要が高い性に関することや、親亡き後の問題などが挙げられました。

ウ 所属機関の抱える課題について

福祉事業所と教育機関との子どもに対する支援の連携についての課題に対し、事業所と学校へのアンケート調査を経て「関係機関と福祉の連携に係る心得」の案（別添4）を作成したことを報告しました。制度の説明に加え、事業所、学校等、保護者において配慮する事項を掲載し、事業所、学校等、保護者間の理解促進を図ることができる内容となっています。今後は、関係する事業所、

教育機関等への説明と協力を経て、ホームページにて展開を行う予定となっています。

エ 医療的ケア児の支援体制の整備について

令和6年11月29日（金）に実施した医療的ケア児等支援研修について、以下のように報告しました。

①テーマ：保育園・幼稚園において、医療的ケア児を受け入れるにあたって

②講師：重心施設にじいろのいえ 施設長 水野美穂子氏

③参加者：31名

（保育園関係者：14名 幼稚園関係者：13名 その他 4名）

講演だけでなく医療的ケア器具を使用した実践をすることでイメージが付きやすかったという意見や、もっと実践的な内容や定期的に研修を行ってほしいという声も挙がっていたので、今後の研修について検討していきます。来年度以降もテーマや対象者を変え、引き続き研修を行っていく予定です。

令和7年2月3日（月）に刈谷市における医療的ケア児等支援についての情報共有と今後の支援体制についての検討を行うために、市内医療的ケア児等コーディネーターを集め、第1回刈谷市医療的ケア児等支援体制検討会を開催しました。検討会では、現状の医療的ケア児支援体制や、各機関が把握している情報や課題を提示し合い、さらなる支援の充実を図ることを目的として話し合いを行いました。

4 総括及び検討事項

子育て支援セミナーについては、講演、交流タイム共に参加者の満足度は高いものとなりました。今年度の性に関するテーマは、幅広い年齢に関わるテーマですが、相談しづらさを感じやすい現状があり、保護者の方の関心が非常に高いことが分かりました。また、実際に障害児支援に携わってきた方、福祉機関、教育機関及び実際に子どもを育ててきた先輩保護者と交流できる機会は、参加者が今後の子育てをする上で効果的であることが分かりました。来年度については、今年度のアンケート結果等を踏まえ、より保護者のニーズに合ったセミナーとなるよう部会で検討します。

また、各機関の連携について、今回作成した「関係機関と福祉の連携に係る心得」の活用や各機関の課題や強みについて情報共有し、さらなる連携体制を構築するための仕組みを部会で検討します。

令和6年度「福祉人財研修部会」後期活動報告について

1 開催日時

第5回福祉人財研修部会 令和6年6月10日（月）

第6回福祉人財研修部会 令和6年9月30日（月）

第7回福祉人財研修部会 令和7年2月10日（月）

2 検討事項

市内福祉事業所の人材育成・スキルアップ、障害者理解を図るために必要な研修内容（テーマ）の検討、選定及び実施手法等を構築し、研修を開催しました。

3 部会員

団体等名	氏名
刈谷市社会福祉協議会	中筋陽三（部会長）
社会福祉法人 観寿々会	橋口磨理子
社会福祉法人 ひかりの家	土井康臣（第5回・第6回） 杉山あずさ（第7回）
刈谷市障害者支援センター	相澤道子
株式会社 悠	外村敦子
特定非営利活動法人 くるくる	加藤正昭
株式会社 エイト	竹内弓理
一般社団法人 IML	長谷川昭人
特定非営利活動法人 インクル	川島容子
合同会社 らっく	石川岳寛

4 検討経過

第5回部会及び第6回部会において、「虐待防止研修」、「令和6年度研修」について研修内容及び実施手法等を検討しました。第7回においては、虐待防止研修及び福祉基礎研修の結果報告等を行いました。

5 実施研修

回数	開催日程場所	内容及び受講者評価	参加人数 (申込人数)
第1回	7月12日(金) 10:00~12:30 刈谷市産業 振興センター	虐待防止研修 1 講師 (社福)成春館 蔵王の杜相談支援 事業所(田原市) 管理者 <small>かまたひろゆき</small> 鎌田博幸 氏 2 テーマ 「虐待防止・身体拘束適正化委員会 の運営方法を学ぶ」 3 受講者評価(1~5) 時間 4.1 内容 4.7 有益性 4.7	30事業所 64名 (30事業所 72名)
第2回	12月13日(金) 10:00~12:30 刈谷市産業 振興センター	虐待防止研修 1 講師 第1回と同じ。 2 テーマ 「福祉施設職員のメンタルヘルスと 虐待防止に役立つ技術」 3 受講者評価(1~5) 時間 3.9 内容 4.5 有益性 4.5	25事業所 51名 (26事業所 64名)
第3回	令和7年 1月23日(木) 10:00~16:00 刈谷市産業 振興センター	福祉基礎研修 1 講師 (社福)豊田市福祉事業団 サービス管理責任者 <small>くらしままさゆき</small> 倉嶋昌之 氏 2 テーマ 「ふくしっておもしろい」 3 受講者評価(1~5) 時間 4.0 内容 4.2 有益性 4.2	12事業所 14名 (12事業所 14名)

6 総括及び検討課題

刈谷市内における研修機会を提供するため、虐待防止研修をはじめ3回の研修を開催し、延べ67事業所129名の参加がありました。サービス提供への影響を抑え、より多くの参加を図るため、実施時期や実施時間の設定に迷う面がありました。

研修受講者アンケートの結果等を踏まえ、その内容等を検討するとともに、次年度以降の研修内容の選定及び実施手法、適切な開催時期を検討し研修を実施します。